

2014-2015 年 阿蘇山の噴火活動について The 2014-2015 eruptive activity of Aso Volcano, Kyushu, Japan

平松 秀行¹; 井上 秀穂¹; 松末 伸一¹; 加藤 幸司^{2*}

HIRAMATSU, Hideyuki¹; INOUE, Hideho¹; MATSUSUE, Shinichi¹; KATO, Koji^{2*}

¹ 福岡管区気象台, ² 気象庁地震火山部

¹Fukuoka Regional Headquarters, JMA, ²Japan Meteorological Agency

はじめに

2014 年 11 月 25 日、阿蘇山は本格的なマグマ噴火を開始した。本発表では、この噴火発生前後の阿蘇山の火山活動について報告する。

2014 年噴火前の活動

阿蘇山では、2013 年 9 月に火山性地震が一時的に増加した。2013 年 12 月 20 日頃からは、火山性微動の振幅が次第に大きくなったほか、二酸化硫黄の放出量が増加した。そして、2014 年 1 月 13 日から 2 月 19 日にかけて、ごく小規模な噴火が断続的に発生した。その後は、火山活動はやや落ち着いた状態で経過したが、2014 年 7 月上旬になると、火山性微動の振幅が再び増大しだし、また、7 月中旬から下旬には火山性地震及び孤立型微動が増加した。中岳第一火口の湯だまり量は約 1 割で経過していたが、次第に減少し、2014 年 7 月中旬には、湯だまりが消失した。また、火口底中央部付近の噴気孔では、ごく弱い火炎を、その周辺部では赤熱を観測した。8 月下旬になると、再び孤立型微動や火山性地震が増加しだし、中岳第一火口底の温度も、それ以前は 300 °C 前後であったのが、8 月 27 日には約 500 °C、10 月中旬以降は約 600 °C と上昇し、二酸化硫黄の放出量も、それ以前が 1000 トン/day 前後であったのに対し、10 月 27 日には 2600 トン/day となった。また、火山性微動の振幅も 11 月中旬から次第に増大した。GNSS 連続観測では、2014 年 9 月頃から西側の基線にわずかな伸びの傾向が認められた。

2014-2015 年噴火活動

そういったなか、11 月 25 日から本格的なマグマ噴火がはじまった。夜間には赤熱したマグマが噴き上げられているのが観測され、噴火はストロンボリ式噴火の様相を呈した。11 月 27 日に行った現地調査では、中岳第一火口の南側で火山灰が約 7 cm 堆積し、火口縁付近ではこぶし大のスコリアを確認した。11 月 25 日から 27 日に実施した現地調査及び聞き取り調査の結果、熊本県、大分県、宮崎県の一部にかけての広い範囲で降灰を確認した。

噴火活動は、盛衰を繰り返しながら 2015 年 2 月現在も続いており、この盛衰に伴って、微動振幅や傾斜記録に変化が観測された。